

成田空港対策協議会

2025年11月12日～16日

トルコ共和国

イスタンブール空港 視察

報告書

*参加者～加瀬間俊勝・大塚恵介・大徳静夫・諸岡良和
平野伸一・市原徹也

*今回の視察にご協力頂きました成田国際空港(株)からの参加者
～取締役 共生・用地部門部門長 江邨孝夫 様
～共生・用地部門 地域共生部アシスタントマネージャー
佐藤 司 様



成田空港対策協議会

トルコ共和国 イスタンブール国際空港視察の目的

☆令和7年度成田空港対策協議会は2025年11月12日(水)から16日(日)まで、世界三大ハブ空港(ロンドン=ヒースロー空港、シンガポール=チャンギー空港、カタール・ドーハ=ハマド空港)の一角に入りたいと画策しているトルコ共和国のイスタンブール空港にその設備の壮大さと先進性、また、将来に亘っての機能強化策などを勉強する為に視察を行いました。

現在、成田国際空港は新たな機能強化が進行中であり、2029年3月を目途にB滑走路の3,500m延伸化、新たに1,099平方メートルの敷地拡大と3,500m新C滑走路の建設、圏央道の大栄～松尾横芝間の完成と四車線化、そして北千葉道路の全通などを懸命に進めております。首都圏空港である一方の羽田空港は現状から言えば、国内・国際路線を合わせると既にキャパシティの100%に近い年間発着量50万回近くに達しており、これ以上の供給は厳しくなっています。残るは成田国際空港が一日も早く3本の滑走路を確保して、年間50万回の発着量を可能にすることですが、これを達成することにより政府の目標である成田・羽田を合わせて100万回を実現できる訳です。

成田空港のターミナルは現在の第1ターミナル、第2ターミナル、そしてLCC専用の第3ターミナルの3つが機能していますが、新たなC滑走路の完成後はやはり第4ターミナルの建設が必須となって来ます。しかしながら第1タ、第2タの老朽化や成田空港までの鉄道輸送増強の為にJR・京成の両複線化などが昨今議論され、また各ターミナル間の移動というデメリットを考えると、効率的なワンターミナルを将来的に建設する方が遥かに正しい選択であるとも議論が進んで来ています。何れにしても国家プロジェクトとしての2029年3月までの機能強化策は、残念ながら未だに取得出来ていない用地が14%弱残っており、達成には時間的にもかなり厳しくなっています。建設予算も人件費や建築資材の高騰によってまだまだ莫大な金額が掛かりますが、何としても日本国を挙げて完成に導きななければならない大きな課題であります。

現在の日本国としては、大きな国家経済戦略の一つにインバウンドによる『観光需要拡大』があることは間違いありませんが、その効果は近い将来15兆円に達すると言われていています。15兆円と言えば『日本の自動車業界』の売上と同じ水準であり、いかに今後の日本の経済の柱となることが伺えます。そんな意味でも成田国際空港の機能強化は待ったなしです。

☆～～以上のような事を背景として(IST)トルコ・イスタンブール空港視察の目的は???

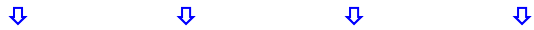
*2018年10月29日に開港した新空港。アタテュルク国際空港の機能を全て受け継ぎ、敷地面積は壮大な7,659ha(現状の成田の6.4倍)を誇り滑走路4本(4,100m×2本、3,750m×2本)、ワンターミナル方式、そして敷地内に4つの異なるエリアを計画。(セントラル・物流・医療など)将来的には9本の滑走路を持つ年間1億5千万人を受け入れる空港を目指し、最終的には年間2億人を視野に入れて世界最大の空港として君臨することを計画しています。ヨーロッパとアジアとの中継点である立地条件を武器に、その全貌を少しでも多く確認したいと思えます。

* イスタンブール空港の年間旅客数は2024年で**79,988,272人**、成田の約2倍。航空貨物取扱量は1,921,798 t で成田の1,945,795 t とほぼ同じで、欧州ではNo.1の地位を確立しています。ターミナルの大きさは約**1,440,000㎡**(世界最大級の単一ターミナル)で、**韓国のインチョン空港の(880,000㎡)の1.6倍**、同じく**成田(897,000㎡)の1.6倍**の規模を誇っている。イスタンブール都市部からの交通アクセスは、**距離にして約44km。最短で約50分～80分(地下鉄M11線及び24時間で運行しているバス、タクシー)**が有り、**地下鉄も2026年4月からは24時間運行を予定**している。建設計画完了時点で、最大22.5万人の雇用創出を見込んでおり、国民経済への貢献として2025年にはGNPの約4.9%を占める規模になるとされ、観光・貿易・MRO(整備拠点)など多分野に影響。**2030年にはGDP比4%**の規模の経済的寄与が期待されてる。

* ターミナルはモダンで広大な空間に、トルコ文化と現代建築の融合を計り、観光客向けに伝統工芸や美術品の展示も豊富。**世界最大級の免税店空間(約5万㎡)**と、トルコ文化・宗教・歴史を意識した内装で、芸術的インテリアとデザイン性の高さも観光的要素に利用されている。また、トルコ航空のハブ戦略との連動を計り、貨物・メンテナンス、商業の空港都市的機能を利用してより未来型空港の在り方を模索している。

* イスタンブール空港シティープロジェクトとしては、世界最大の空港である**イスタンブール空港の敷地内、約4,015万㎡のエリアにある4つの異なる地域**が開発が進められています。このプロジェクトに一環として、メインターミナルビルのすぐ隣に「**セントラルエリア**」と呼ばれる50万㎡の区域が設計されました。セントラルエリアには、**ホテル・オフィス・小売エリア・交流スペース・公園・休憩エリア・モスク・教育施設、住宅エリア(サービスアパートメント)**が含まれており、航空業界の従業員が利用できる宿泊・交流の場となる予定です。ターミナルとセントラルエリアを結ぶ歩行者道路は、駐車場ブロックや地下鉄駅を通じて途切れることなく接続され、従業員や乗客の移動がスムーズに行えるように設計されています。プロジェクトの他の3地域には、物流・医療・小売・オフィスエリアなどの施設を含めることが目標とされています。

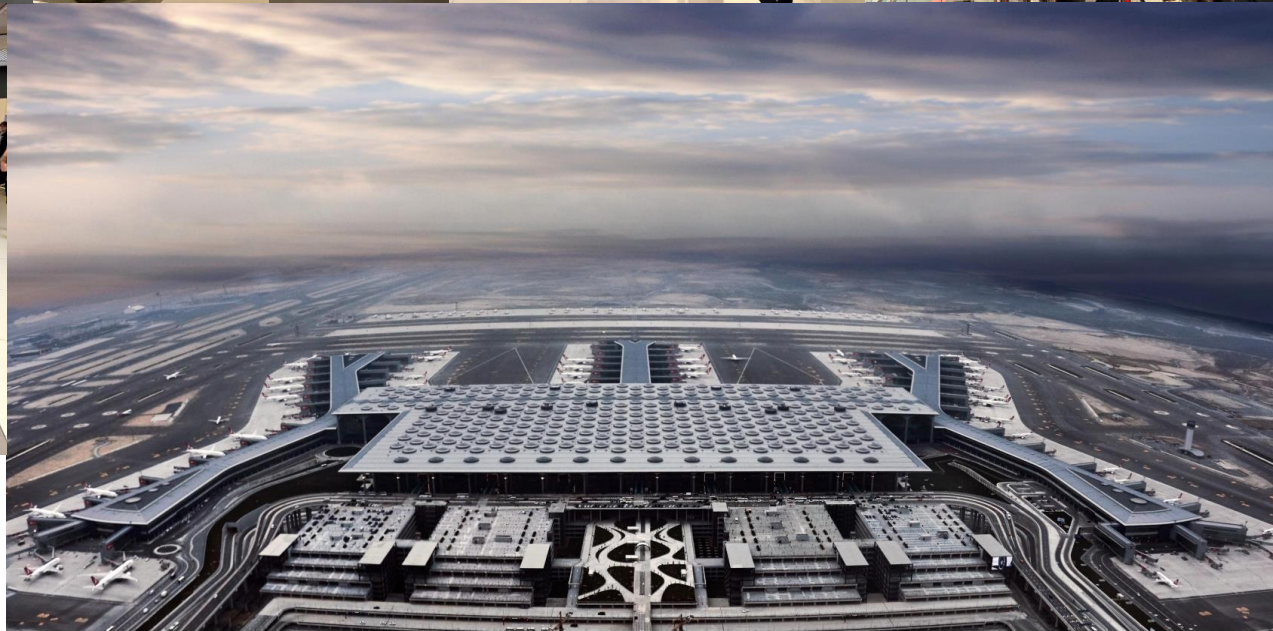
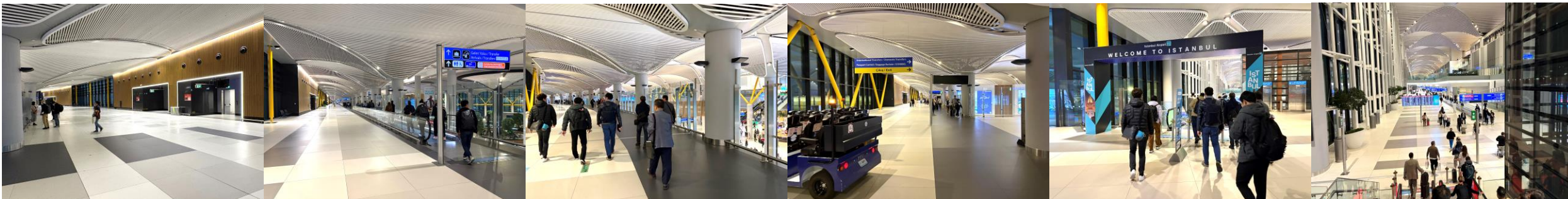
* イスタンブール(IST)とアジア側の**サビハ・ギョクチェン国際空港(SAW)**との役割分担は???



* イスタンブールにはアジア側にLCCが主に就航しているを持つ **(SAW) サビハ・ギョクチェン国際空港 (国際線・国内線)**が在ります。その面積は僅か650haになりますが、**滑走路は3,000m×45と、3,500m×60の2本**で、**年間旅客数4,148万人(2024年)の実績**を有しています。ターミナルは国際・国内共通の構造になっており、112のチェックイン、24のオンラインチェックインカウンター、VIPビル、ビジネスラウンジ付のエプロンビューイングCIPホールを備えています。その空港はどのようにイスタンブール新空港と機能分担をしているのかを探りたいです。何れの空港も市内から50km程度の距離にあって、どちらもイスタンブール中心街まで地下鉄の路線で結ばれています。

*トルコ (IST) イスタンブール空港 視察報告

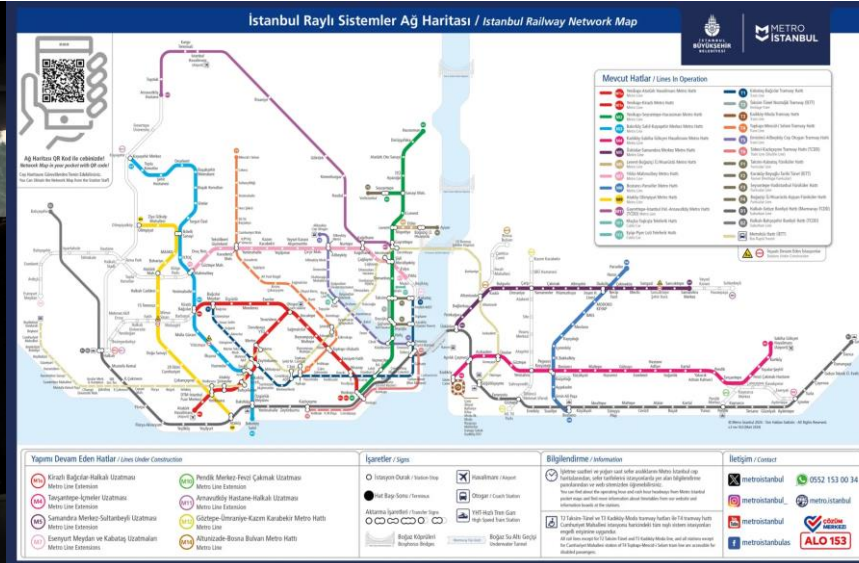
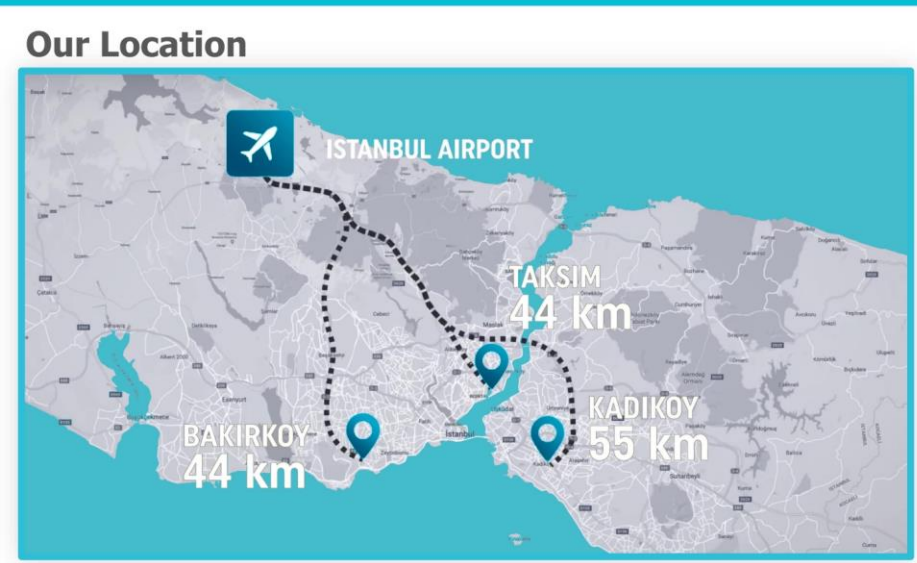
*2025年11月12日(水)より16日(日)までトルコ・イスタンブールへ行って参りました。そして2018年にアタテュルク国際空港から受け継いだ
広大で最新鋭の**イスタンブール空港の視察**を行いました。上記ページに記載してある様にそのターミナルの大きさは想像以上であり、航空機
から降りた瞬間にターミナル通路の長さを体験することになりました。途中、6~7人が乗車出来るカートが有りましたがただ止まっていました。



暫く歩いて1階に降りてから、**いよいよ入国手続きゲート**を通過。それからまた階段で降りて**バゲージクレーム**に到着。航空機から降りてから30分強が経っておりましたが、ちょうどバゲージは合わせた様に出て参りました。入国審査もスムーズであり行列が出来るようなことも有りませんでした。至って**スムーズな感想**です。

*イスタンブール空港から新市街までの交通手段について

イスタンブール空港からイスタンブールヨーロッパ側の新市街(タクシム)までは44km。アジア側の中心地カドゥキョイまでは55kmと、東京～成田間とほぼ同じ距離感であります。交通手段は24時間運行のバス、タクシーの他、昨年イスタンブール空港に地下鉄M11号線空港駅が開業して、途中の駅で乗り換えが必要ですが、タクシムまで1時間程度で行けるようになりました。空港バスはタクシムにもカドゥキョイにも30分於きに出て、所要時間は1時間半から2時間程度かかっているようです。イスタンブールの人口は1,565万人(2023年)でバルカン半島最大の都市であり、中心部の交通渋滞はかなり酷く、世界中からの観光客で賑わう中心部はとくに時間がかかります。タクシーはどこでも手配出来ますが、運転手によって法外な料金を取られることが多い様なので注意が必要です。バス・地下鉄であれば200～300リラで¥800から¥1,200です。



*イスタンブール空港の建設計画

2013年に始まった空港建設事業は4つのステージに分かれて建設が進められていますが、2025年には第1ステージがほぼ完了して、現在は第2Aから第2Bと進み2039年に第4ステージまで終わる予定となっています。プロジェクト全体でかかる費用はおよそ70億€。日本円で1兆2千6百億円に及んでいます。尚、現在の経営権は2044年までと明記されています。

PROJECT TIMELINE

Won the Concession Tender for 25 years
 Concession Fee 22.152 billion EUR + VAT
 Investment 10.247 billion EUR
 First Phase To be Completed in 42 months

T.C. Ziraat Bankası A.Ş.
 Türkiye Vakıflar Bankası Türk Anonim Ortaklığı
 Türkiye Halk Bankası A.Ş.
 Türkiye Garanti Bankası A.Ş.
 Finansbank A.Ş.
 Denizbank A.Ş.



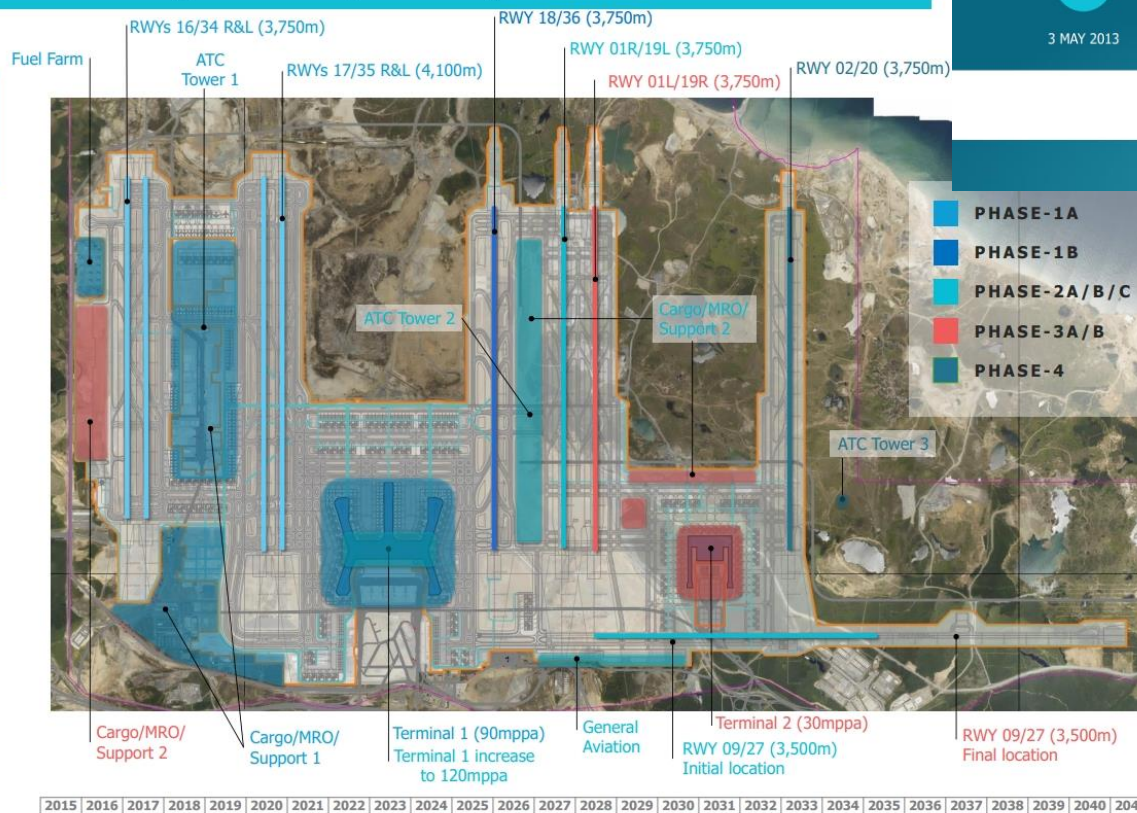
IGA Masterplan / Phasing & Capacity

Airport Capacity (MPPA)

90	120	150	150
PHASE 1	PHASE 2	PHASE 3	PHASE 4

Phase	Duration (months)	Scope of Work	Estimated Time Frame	
			Start	Finish
2A	24	Rwy 09/27 (E-W initial location)	Mid 2023	Mid 2025
2B	24	Increasing the capacity of Terminal 1 from 90mil to 120mil	Beginning of 2025	End of 2027
2C	24	Rwy 01R/19L (3rd aux Rwy)	Beginning of 2026	End of 2028
3A	30	Terminal 2 (30mil) Rwy 09/27 (E-W final location)	Beginning of 2029	Mid 2031
3B	30	Rwy 01L/19R (4th main Rwy)	Beginning of 2032	Mid 2034
4	30	Rwy 02/20 (5th main Rwy)	Beginning of 2037	Mid 2039

Current Facilities	Area
Terminal Building (120 Million pax/year)	1.370.000 m ²
Multistorey Carpark (18.000 cars)	624.000 m ²
Other Support Facilities	1.170.000 m ²
Phase-1 Terminal Area	3.164.000 m²



現在稼働している滑走路は5本でターミナルは1つ。(国内線・国際線)2本の17/35方向の滑走路は4,100m。16/34方向の滑走路は3,750mで、18/36方向の滑走路は3,060mと短いですか、将来は3,750mと延伸が予定されています。滑走路の幅は17L/35Rと16R/34Lは60m。17R/35Lと16L/34R、18/36は45mとなっています。メイン滑走路としては60m巾の2本と18/36の1本の合計3本を使用し、後の2本はバックアップとして利用しているとの事でした。尚、全ての滑走路はアスファルト舗装であります。ステージ4では新たなターミナル2も建設して、滑走路9本を誇る大空港へと発展していく計画であります。今後ターミナル2と共に建設予定のRWY09/27滑走路は離陸専用になるそうです。

CONFIDENTIAL

*コンコース

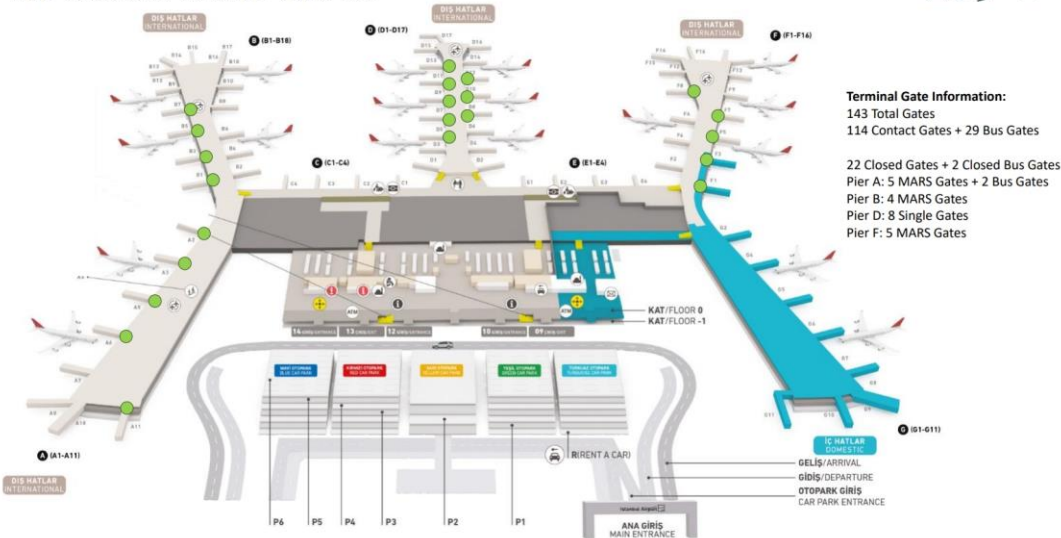
コンコースはA, B, D, F, Gの5つのコンコース、そして143のボーディングブリッジを備える計画であります。ブルーのGは国内線のブリッジです。この他に国内線バスゲートが13、国際線バスゲートが16の計29ゲートを確保。将来的にはエアバスA-380の専用ゲート15を含むContact Gateを114、飛行機の機材を駐機出来るRemote Parkを257用意して、最大で371機常時待機可能なスペースを確保する計画となっています。

コンコースはCとEがメインターミナルに繋がる、独立していないコンコースで、その長さはそれぞれA=520m、B=420m、C=385m、D=550m、E=385m、F=520m、国内線のG=420mとなっています。Moving Walkwaysは167カ所に設置され(9ページを参照)、Buggyは65歳以上、妊婦や2歳までの子連れはフリーで利用できます。(10ページを参照)

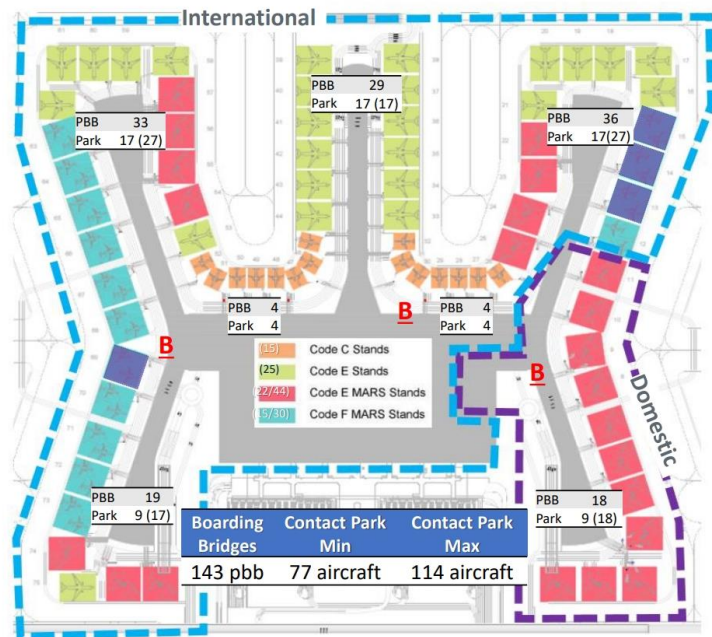
Terminal is designed under one big roof which enables seamless terminal operation and passenger journey



ONE TERMINAL TO RULE THEM ALL



Terminal Aircraft Parking



15 A380 contact gates

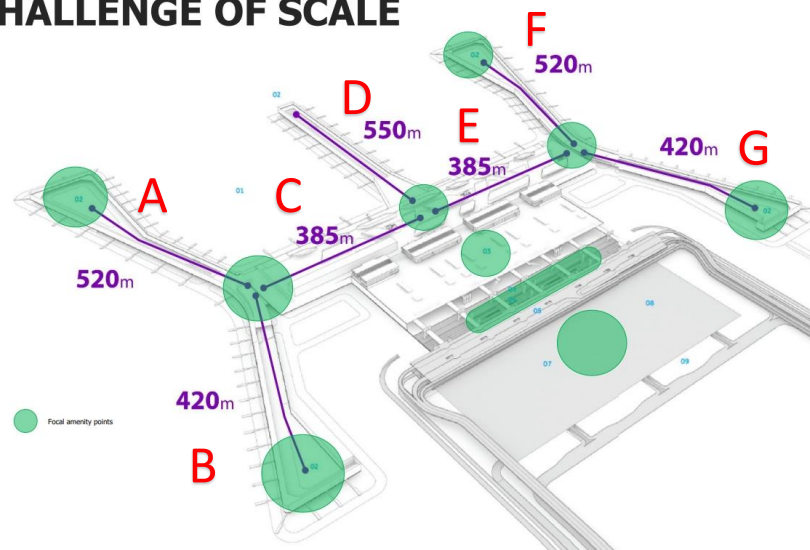
Aircraft Stands	
Contact Gate	114 each
Remote Park	257 each
TOPLAM	371 each

Atatürk AHL 146 each
 Sabiha G. SAW 79 each

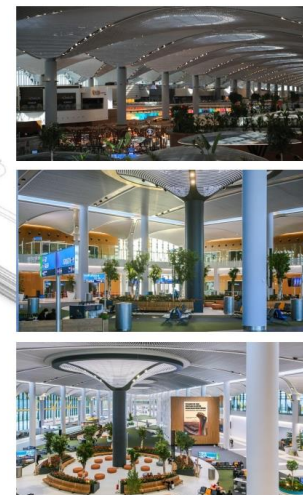
Bus Gate	
Domestic Bus Gate	13 each
International Bus Gate	16 each
Total	29 each

B : Bus Gate

CHALLENGE OF SCALE



Istanbul Airport



We positioned moving walkways, escalators and elevators in critical points

PASSENGER COMFORT

CONVENIENT PASSENGER ROUTES AND INSTRUMENTS



53% Shorter Walking Distance via:

- 167 Moving Walkways
- 166 Escalators
- 336 Elevators

We also offer alternative solutions to reach the flight gate: Buggy

PASSENGER COMFORT

CONVENIENT PASSENGER ROUTES AND INSTRUMENTS



BUGGIES ARE FREE OF CHARGE FOR THE FOLLOWING PASSENGERS:



Above 65 years old



Pregnant



0-2 years old kids and their parents

iGA BUGGY at



Departure



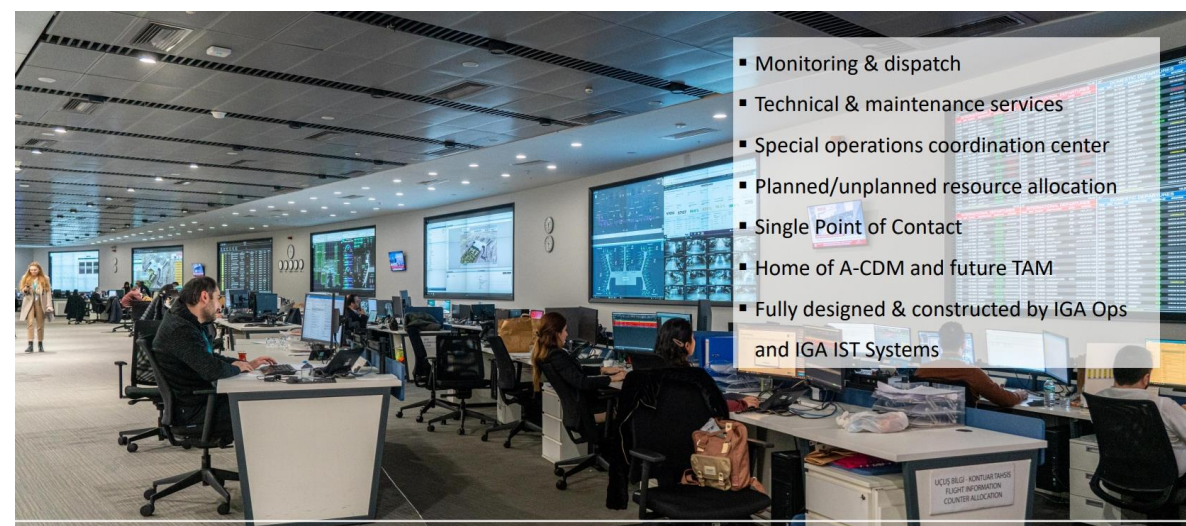
Arrival



Istanbul Airport

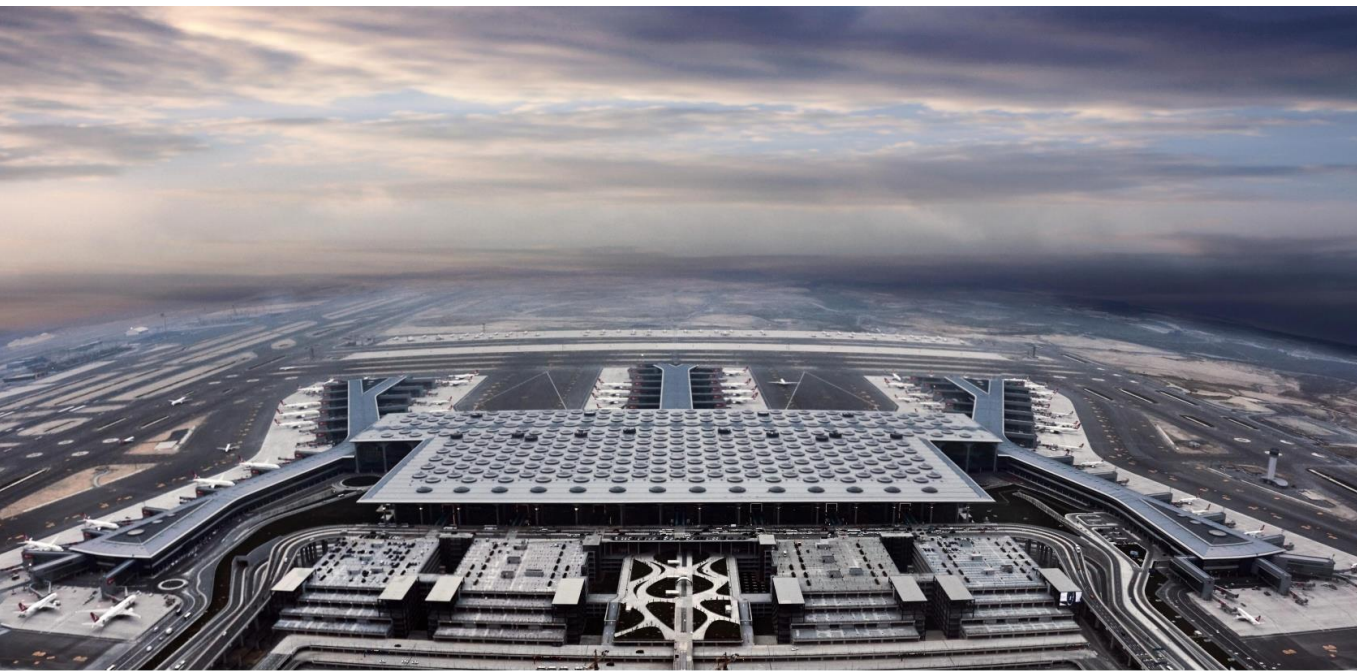
* IGA Airport Operations Center

この巨大な空港の全てを集中管理しているのが、オペレーションセンターです。僅か7席のデスクしかなく、そこは空港の様々な運営を管理する中心的な部署であり、問い合わせ窓口として、24時間年中無休のコールセンターも併設しています。管制塔はまだ1つですが、この後2本の管制塔も完成予定で、どのように数多くの機体を安全に管理するのか、可能ならば知りたいと思います。計画によれば2039年までにはバックアップ用の滑走路を含む合計9本での運用が始まり、管制塔3本を駆使しての管理は、それこそAIなどを活用してのものになると思いますが、IGA IST Systemsのオペレーションの全貌を出れば確認して見たいと大いに思いました。



- Monitoring & dispatch
- Technical & maintenance services
- Special operations coordination center
- Planned/unplanned resource allocation
- Single Point of Contact
- Home of A-CDM and future TAM
- Fully designed & constructed by IGA Ops and IGA IST Systems

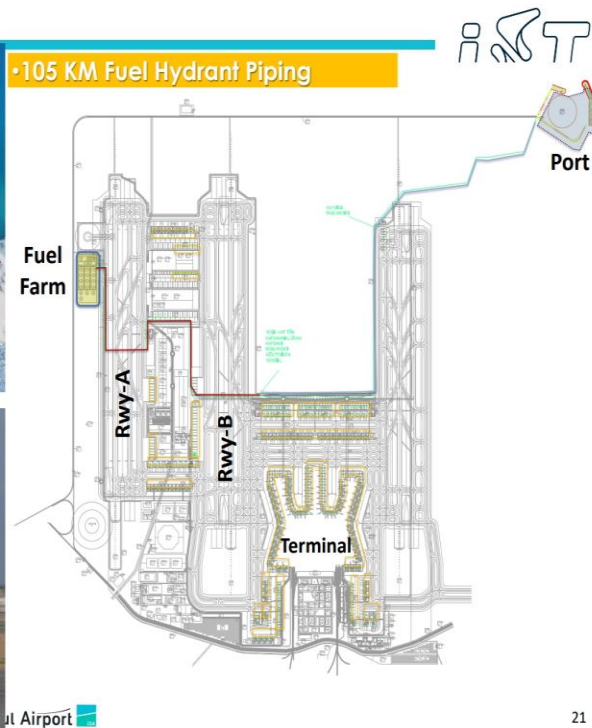
IGA APOC – Airport Operation Center



* Jet Fuel Distribution

ISTイスタンブール空港の航空燃料の供給システムについては、空港の沿岸に10万グロストンのJetty-1と、5万グロストンのJetty-2があり、滑走路の近隣には3万立法のタンク10本=合計30万立法の容量(16日分のストック)を常時確保しています。地下に張り巡らせているFur1パイプの総延長は105kmにも成るそうです。右の2025年現在のイスタンブール空港・上空画像を見るとまだ滑走路は5本であり、今後は更にパイプラインは伸びて行くことになると考えられます。

Jet Fuel Distribution



CARGO AREA

イスタンブール空港のカーゴスペースは旧アタテュルク空港の4.5倍に達して
いて、自動車の駐車場のスペースも6,000台に及ぶビックスケールを誇ります。

Cargo Area Fact

	ATATURK AIRPORT	ISTANBUL AIRPORT
Annual Cargo Capacity	1,2 mn. tons →	5,5 mn. tons
Total Cargo Space	300.000 m ² →	1.400.000 m²
Aircraft Parking	16 aircrafts →	29 aircrafts
Leasable Area	- →	340.000 m²
Expansion Area	- →	60.000 m²
Temporary Storage Area	65.000 m ² →	195.000 m²
Carpark Capacity	750 cars →	6.000 cars

Comparison

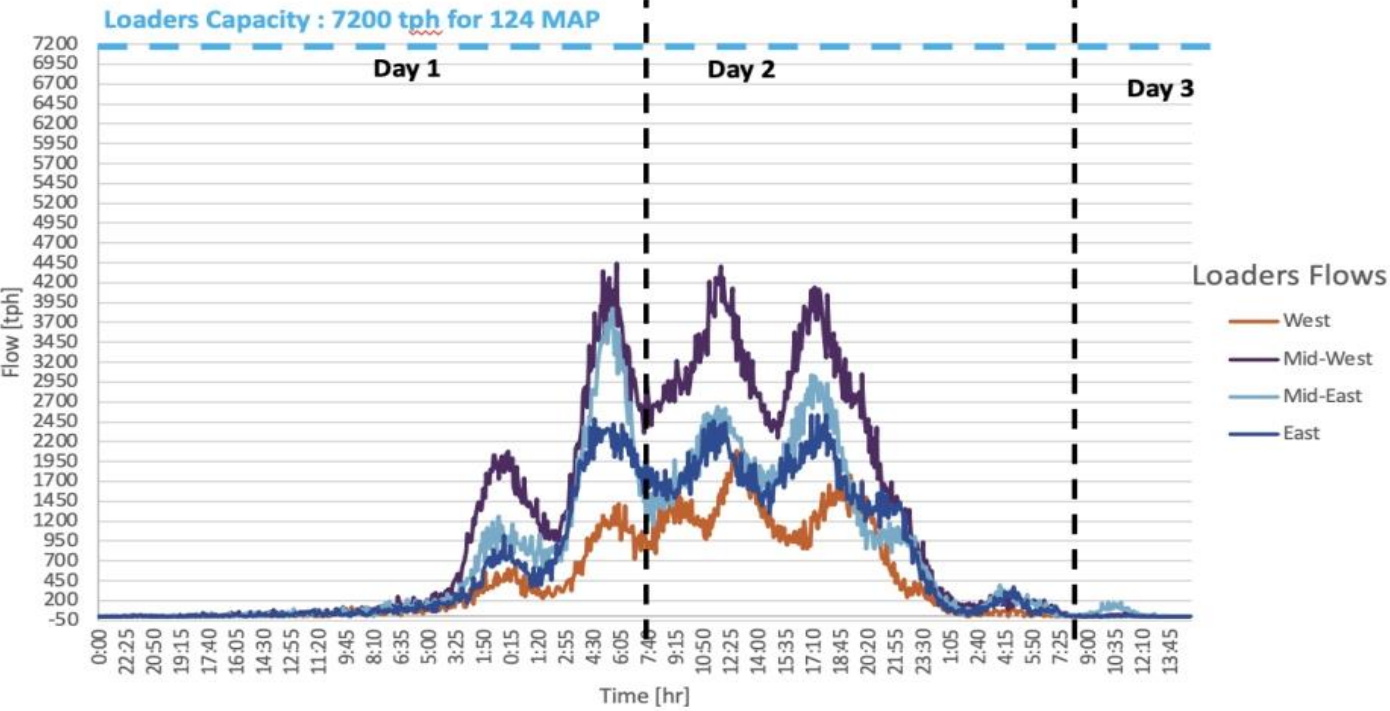
	HONG KONG	FRANKFURT	DUBAI	MEMPHIS
Total Cargo Space	500.000 m ²	1.500.000 m ²	110.000 m ²	5.000.000 m ²
Annual Cargo (2017)	4.9 mn. tons	2.1 mn. tons	2.6 mn. tons	4.5 mn. tons
Aircraft Parking	43 aircraft	20 aircraft	23 aircraft	120 aircraft

世界の主要空港と比較しても全ての建設工事が完了後は世界ランクトップに躍り出ると思われます。



Terminal BHS

個人キャリーバック輸送システム
はトルコ最速で世界一の規模を誇っています。



ICS (Individual Carrying System) First in Turkiye and Largest in the World



Istanbul Airport

Capacity Areas	90 MAP	120 MAP
Conveyor Lines	42 km	
Check-in counters	468	566
Sortation	21,600 BPH	27,600 BPH
(Make-up)	400 Pos	500 Pos
EBS (Early Baggage Storage)	10,500 Pos	22,000 Pos

AIRSIDE OPERATIONS

イスタンブール空港の安全性を担保する機能と施設です。

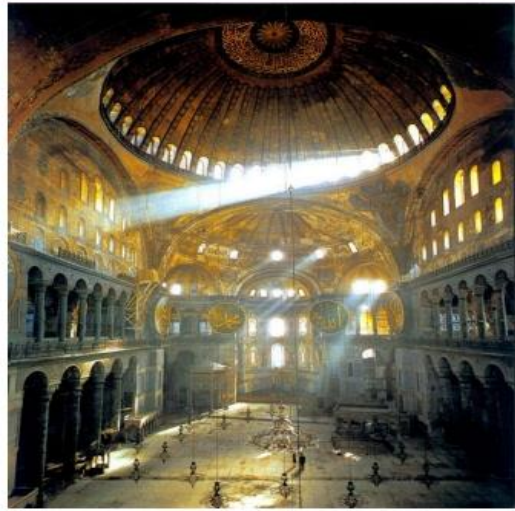


Airside Operations, with 642 personnel and 195 equipment, are responsible for the aviation safety of the entire airside including but not limited to ARFF, winter operations, FOD management, Follow-me, wildlife management, hazard management, inspections, etc. in order to provide continuous operations on 24/7 basis.

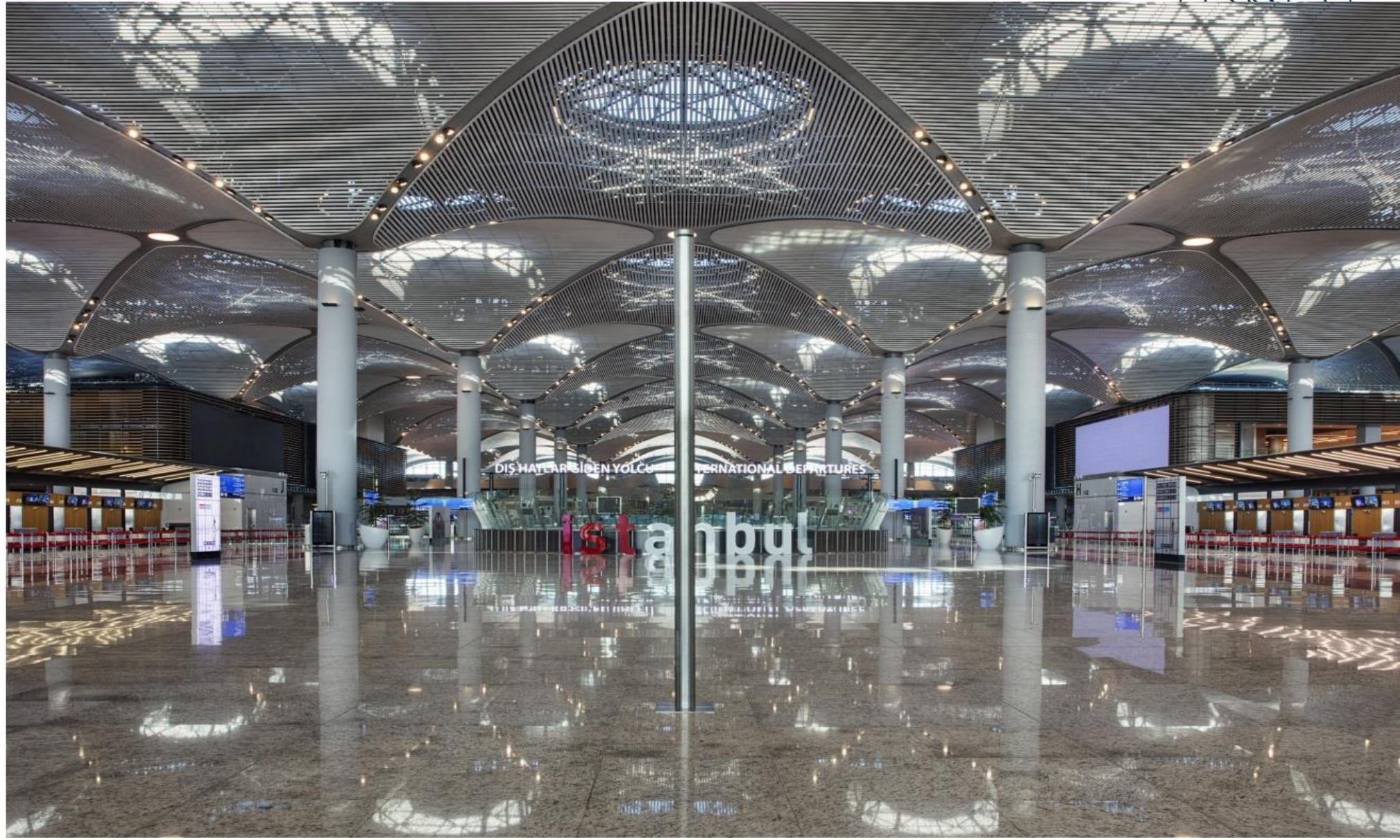
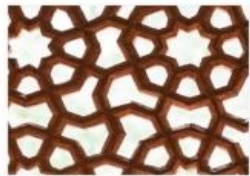


TERMINAL BUILDING

イスタンブール空港のターミナルビル(ワンターミナル)



PATTERNS



ターミナル内、ランドサイドとエアースイドの各施設は広大な面積を誇ります。



Challenge of Scale: Services, Amenities, Entertainment

Commercial Areas	Landside	Airside	TOTAL
Duty Free	-	54.358 m ²	54.358 m ²
Food & Beverage	11.722 m ²	22.339 m ²	34.061 m ²
Lounge	1.529 m ²	27.635 m ²	29.164 m ²
Hotel	21.034 m ²	4.671 m ²	25.705 m ²
Retail	5.163 m ²	12.174 m ²	17.338 m ²
Advertisement boards	22.000 m ²	19.000 m ²	41.000 m ²
Office Space	7.630 m ²	31.076 m ²	38.709 m ²
TOTAL	69.078 m²	171.253 m²	240.331 m²



There is no room for "one size fits all"

Istanbul Airport where everyone feel comfortable to travel



Premium Guests



Disabled Guests



65+ Guests



Families with children

TÜRK  **MİSAFİRPERVERLİĞİ**
TURKISH **HOSPITALITY**



イスタンブール空港は全ての人に快適なスペースを提供します。



Generation Z



Business People



Global Guests

Value added services are offered placing passenger comfort as the first priority



空港内ホテル施設はランドサイドで277室、エアースイドで174室を確保しています。

TERMINAL FACILITIES


Passenger Comfort Focused Facilities



Hotel

- Hotel within the terminal building with a total of 451 rooms
- ✈ Airside ————— 174 Hotel Rooms
- ✈ Landside ————— 277 Hotel Rooms



SPA  SPA Center at air side departure floor, offering spa and beauty services

Connecting with our Guests



1 INFRASTRUCTURE

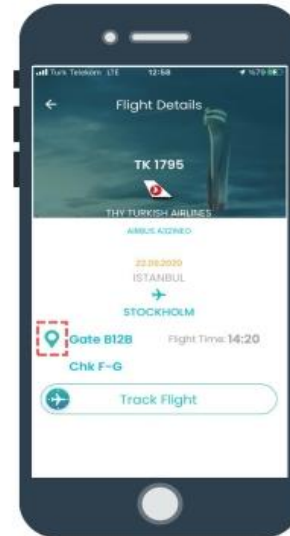
Listening
Learning
Planning

2 OPERATION

Seamless
Easy

3 GUESTS

Segmentation
Personalized



Before Airport

Car Parking
Available

Flight Tracking
Available

イスタンブール空港は全てゲストに各種の情報をコネクしています。

Find My Car
Available

Travel Profile
Available

Travel Checklist
Q3 2023

Istanbul Airport

@ Istanbul Airport

QMS
Available

Data Management
Available

E-Passport
Available

AR Shop
Available

istbuy
Q3 2023

Map and real time navigation is provided to passengers through Istanbul Airport Mobile Application

PASSENGER COMFORT

イスタンブール空港のモバイルアプリは正に多彩。本当に便利です。

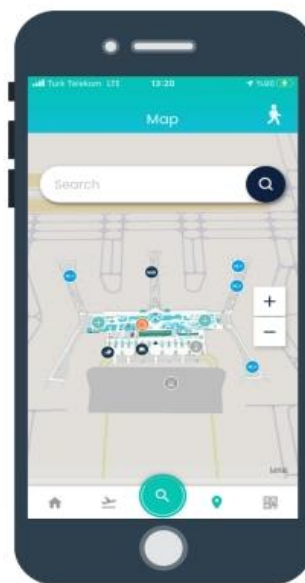
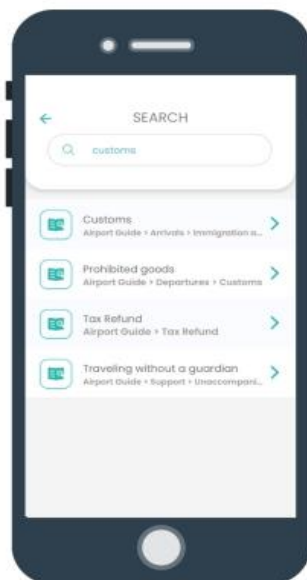
CONVENIENT PASSENGER ROUTES AND INSTRUMENTS

Access to all facilities location

Through main dashboard



Through search function



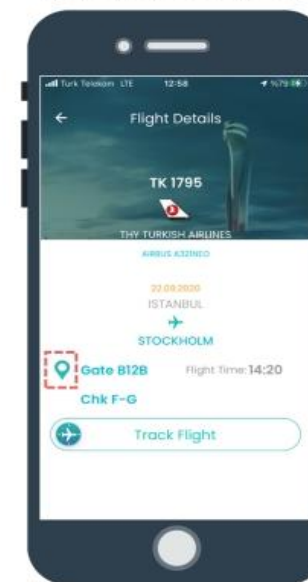
Istanbul Airport

Direction to the related facility

Through related menu of the facilities
(direction to the related facility)



Through flight details
(direction to the gate)



Smart Carpark

Carpark Capacity (Multistory + Open)

Istanbul Airport	40.000 cars
Ataturk	8.500 cars
Munich	15.000 cars
Frankfurt	15.000 cars
Copenhagen	10.500 cars
Dubai	2.600 cars

Multistory Carpark
18.000 Cars

Area: 624.000 m²

Open Space Carpark
22.000 Cars

Area: 500.000 m²

Total Carpark Capacity
40.000 Cars

Area: 1.127.000 m²



Valet



Disable Parking



Vehicle Help



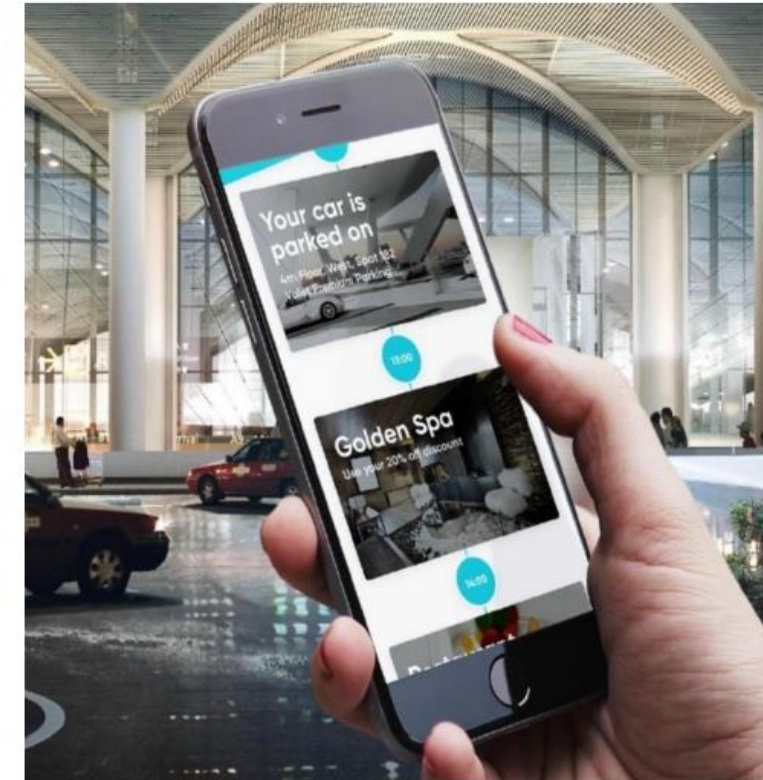
Charge for Elec Vehicles



Fuel



Car Wash



40,000台を確保するイスタンブール空港・パーキングの情報も驚きです。

Approx. Airport City Areas

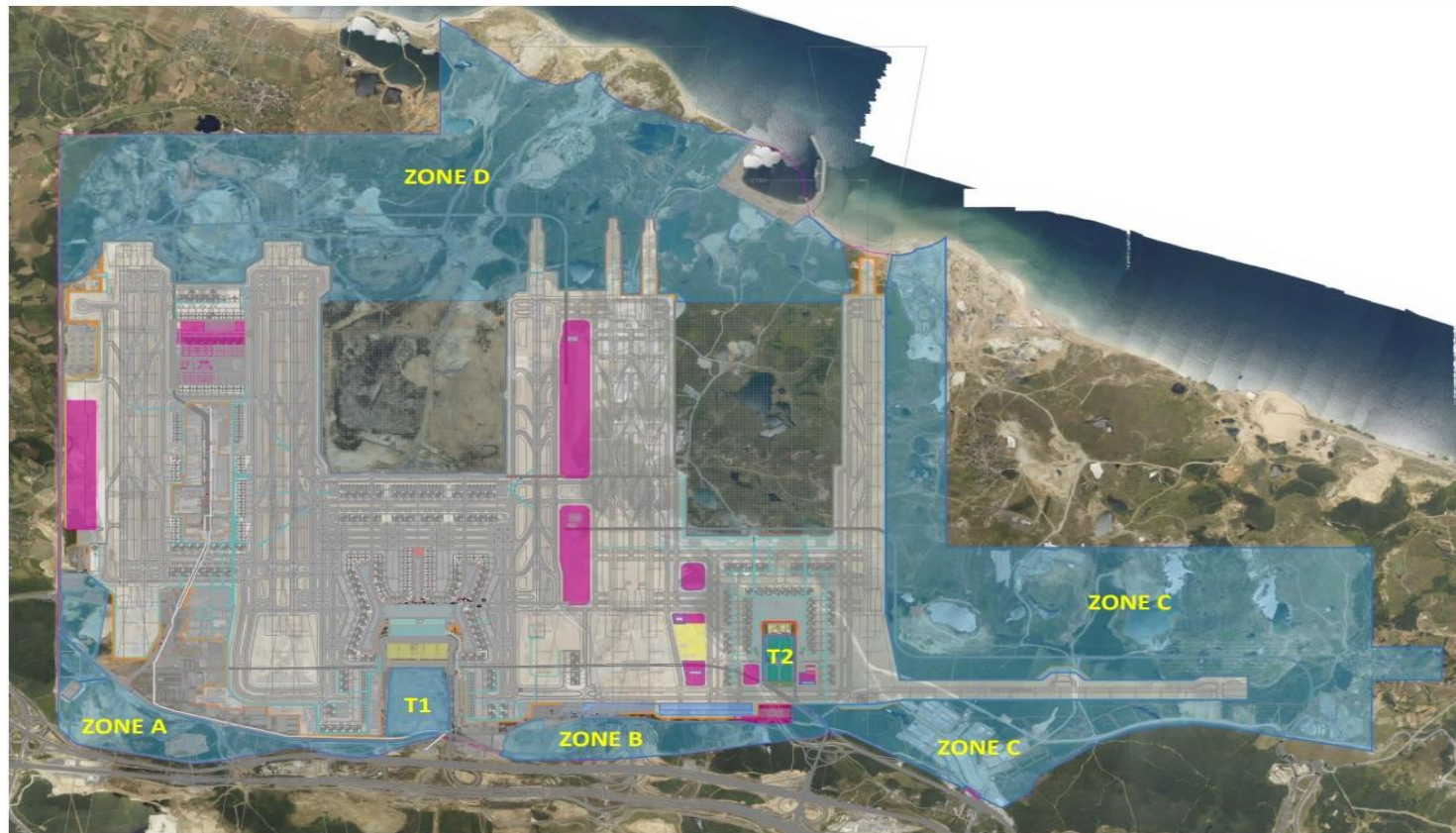
Zone A: 2,000,000 m²
 Zone B: 1,200,000 m²
 Zone C: 14,000,000 m²
 Zone D: 22,600,000 m²

T1 Core Zone: 500,000 m²
 T2 Core Zone: 200,000 m²

Total Area: 40,150,000 m²

Airport City planned to include:

- hotels,
- commercial zones,
- free trade zone,
- shopping & social zones,
- park & recreational zones,
- serviced residential apartments
- hospital,
- exhibition facilities,
- mosque
- educational facilities.

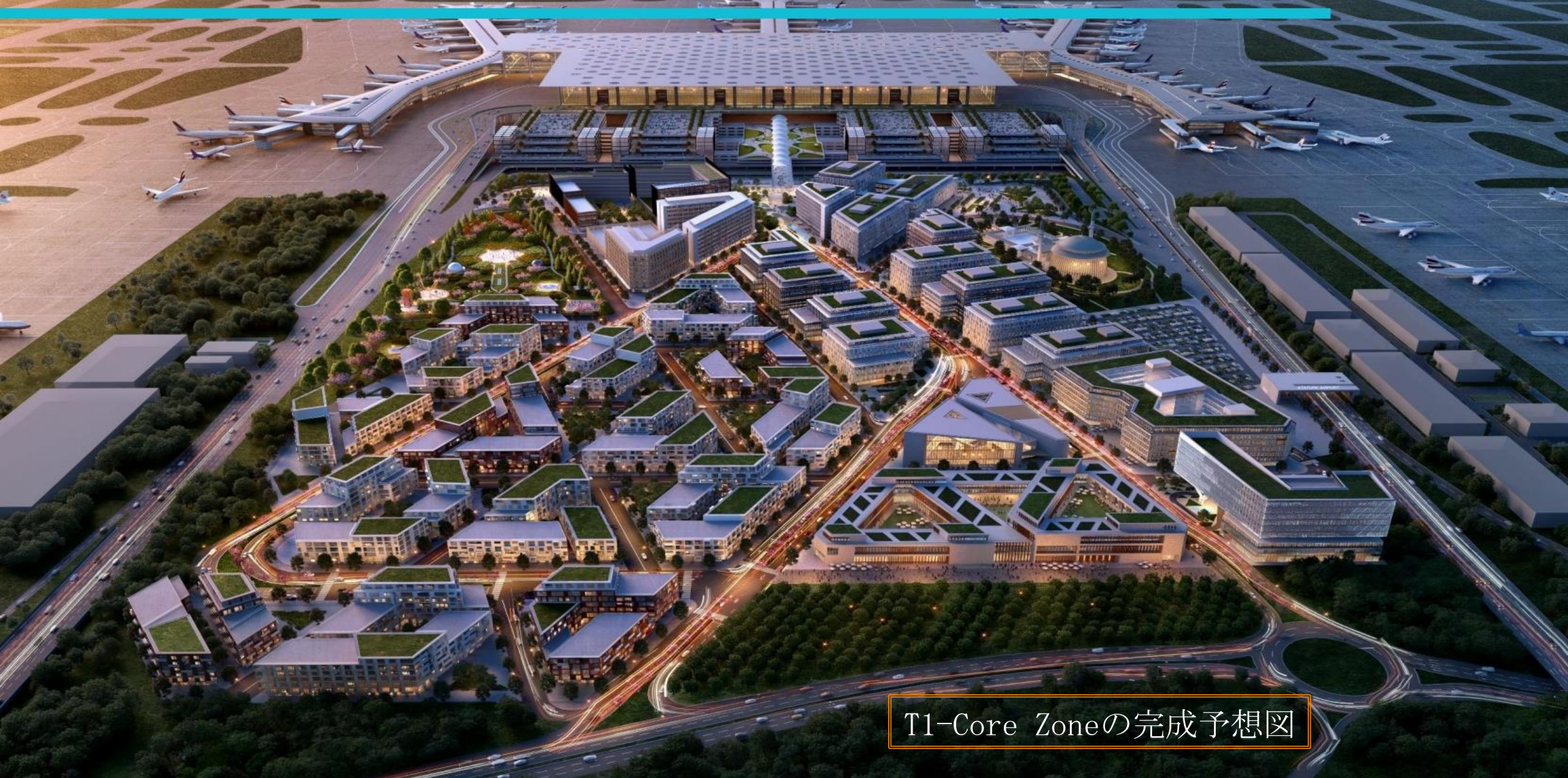


Istanbul Airport

前述の通り **イスタンブール空港シティプロジェクト**としては、世界最大の空港であるイスタンブール空港の敷地内、約4,015万m²のエリアにある4つの異なる地域で開発が進められています。このプロジェクトに一環として、メインターミナルビルのすぐ隣に「**セントラルエリア**」と呼ばれる**50万m²の区域**が設計されました。セントラルエリア・T1 Core Zoneには、ホテル・オフィス・小売エリア・交流スペース・公園・休憩エリア・モスク・教育施設、住宅エリア(サービスアパートメント)が含まれており、航空業界の従業員が利用できる宿泊・交流の場となる予定です。ターミナルとセントラルエリアを結ぶ歩行者道路は、駐車場ブロックや地下鉄駅を通じて途切れることなく接続され、従業員や乗客の移動がスムーズに行えるように設計されています。

プロジェクトの他の3地域には、**物流・医療・小売・オフィスエリアなどの施設**を含めることが目標とされています。

AIRPORT CITY - CORE ZONE



T1-Core Zoneの完成予想図

***参考!** イスタンブール、アジア側の近隣空港であるサビハ・ギョクチェン国際空港(SAW)はLCCの発着が多い既存空港!!!

前述したように敷地面積は 約650ヘクタール (約6.5平方キロメートル)。今回視察した新しいISTは約7,659ヘクタール (約76.6平方キロメートル)) ですから、規模は比較にならないものですが、イスタンブールのアジア側に位置し、ペガサス航空などのLCCを中心としたハブ空港として利用されており、**年間旅客数は4,000万人超(4,148万人=2024年)**とトルコ国内でも主要な空港の一つとなっています。同空港は**滑走路が2本(3,000m×45mと3,500m×60m)**であり、将来的には更なる拡張計画も進められています。さらに、年間約2,500万人の旅客処理能力を持つ新しいターミナルは、国内線・国際線ど共通の構造になっていて、112チャックイン、24のオンラインチェックインカウンター、VIPビル、ビジネスラウンジ付のエプロンビューイングCIPホールも備えています。

現在の成田空港の敷地面積の半分のスペースで、年間4,148万人の旅客数を捌いているギョクチェン空港の存在価値は益々大きくなっているように思えますが。今回の視察では直に見学することが出来なかったのは誠に残念でした。尚、この空港にも地下鉄M4号線が開通していて、イスタンブール中心地と結ばれています。

※右の二枚の空港上空写真はNAAの佐藤 司氏が機内から撮影したものです。

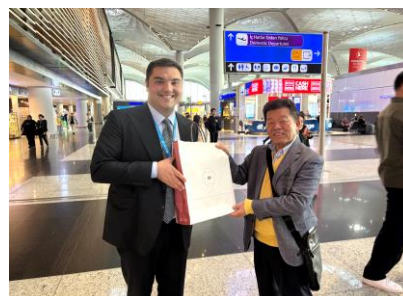
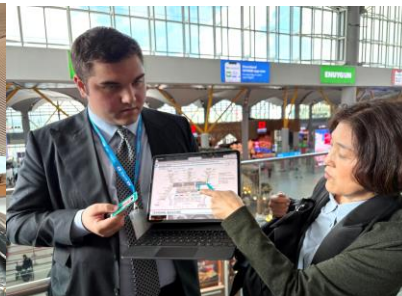


*今回の視察のまとめ!!!

*今回のイスタンブール空港視察で見たものは、大きなスケールの建設計画とその完成までの時間の速さ、そして**ワンターミナル内の充実した設備や機能性の高さなどを確認出来た**ことでしょう。! しかしながらトルコ共和国の現状を反映してか、急激なインフレによって空港内施設を利用するにあたって料金が非常に高く、イスタンブールの住人は空港ではなるべく支出を控えて、空港内では食事や買い物をしないという観念が定着しています。これは利用客には決して優しくない点だと思います。イスタンブール内を案内して頂いた**Kafkasさんや通訳の安達さん**も**空港は市内の3倍の価格**だと強調していたのが印象的でした。 巨大なワンターミナルですが、今年3月に視察したシンガポール・チャンギ国際空港と比較して、1~4ターミナルを使用しているチャンギーに対比して、乗り継ぎも大変便利で、乗客にとっては分かりやすい空港だと思います。但し、移動距離が断然長い点は払拭出来ないところです。ターミナル内で一番驚いたのが、空港内免税店で売られているほぼ全ての**価格設定がユーロ€やドル\$建て**であったことでもあります。いかにトルコ・リラが弱い通貨であることの証しだと思いますが、その理由をIGAの担当者にお聞きしましたところ、どうしてですかねえ〜とはっきりとは答えてくれませんでした。

今回の視察の時点では工事計画の2A・2Bの段階で、今後2039年までで全ての工事が完了するとのことでしたが、羨ましい点は滑走路や建物などの**施設建設に対して、騒音の苦情などは全く無い**とのことでした。早期に世界一の空港を建設するというトルコの意図はしっかりとそして確実に遂行されているのを肌で感じた視察となりました。

尚、今回も成田国際空港(株) NAAの皆様には大変お世話になりましたことを改めて御礼を申し上げます。有難う御座いました。



○今回の視察で大変お世話になりました下記の皆様にも改めて御礼を申し上げます。

* IGA Istanbul Airport

『Aviation Development Senior Analyst』

『MILLSTONE CAVE SUITES』

* トルコ語通訳

* 株式会社グリーンポート・エージェンシー

Ömer SEFER 様

Kafkas KANKILIC 様

安達智英子 様

椎名 芳行 様